

平成25年度 猪名川町・中学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町教育委員会中学校生徒の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用および小問ごとにその結果を示すことにより、学習指導上の問題点および改善点を明らかにする。

■ 調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

■ 調査対象

- 町内の公立中学校2年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

■ 調査日

- 平成25年4月24日（水）

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

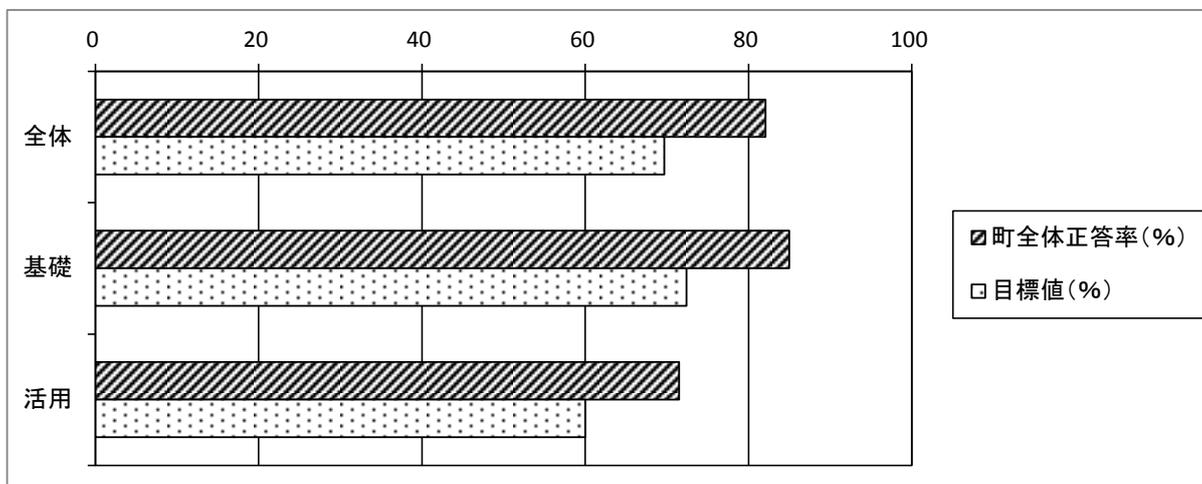
| | | 町全体 正答率 (%) | 目標値 (%) | 目標値との差 | 受験者数 |
|-------------|-----|-------------------|------------|--------|------|
| 中学校・ 2年生 | 国語 | 82.1 | 69.7 | 12.4 | 301 |
| | 数学 | 68.8 | 58.0 | 10.8 | 301 |
| | 英語B | 68.0 | 56.7 | 11.3 | 301 |

- 町全体の正答率は、国語・数学・英語ともに目標値を上回っていて良好である。

■ 中学校第2学年【国語】

(1) 基礎・活用正答率

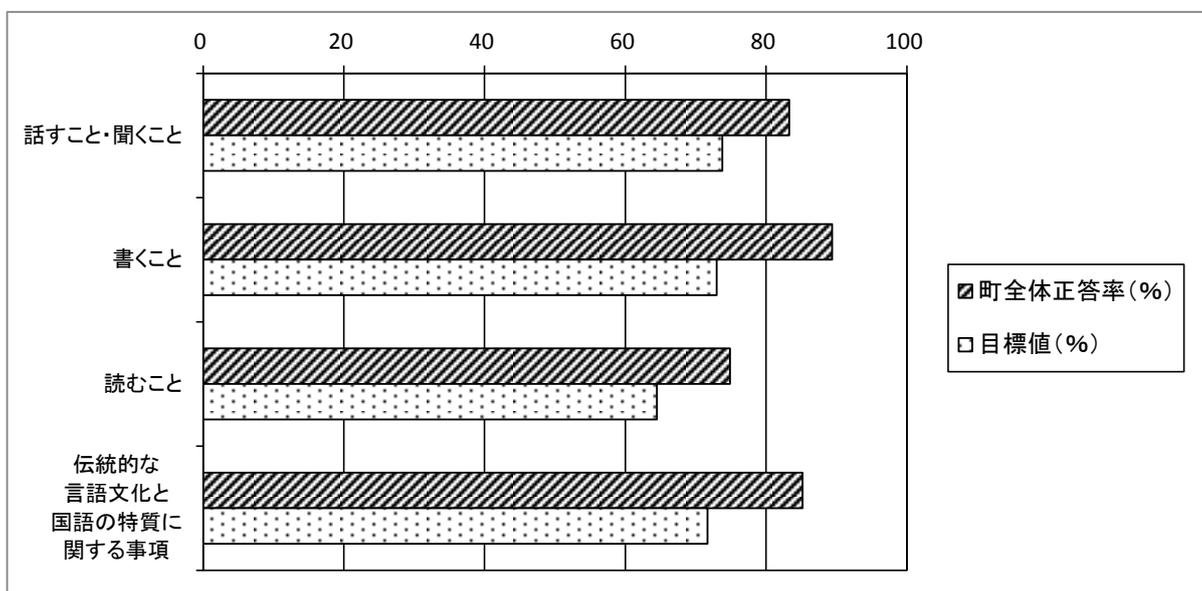
| | 全体 | 基礎 | 活用 |
|-----------|------|------|------|
| 町全体正答率(%) | 82.1 | 85.0 | 71.5 |
| 目標値(%) | 69.7 | 72.4 | 60.0 |
| 目標値との差 | 12.4 | 12.6 | 11.5 |



●基礎・活用問題共に目標値を大幅に上回っていて非常に良好な状況にある。さらに前年度よりも良い傾向になってきている。

(2) 領域別正答率

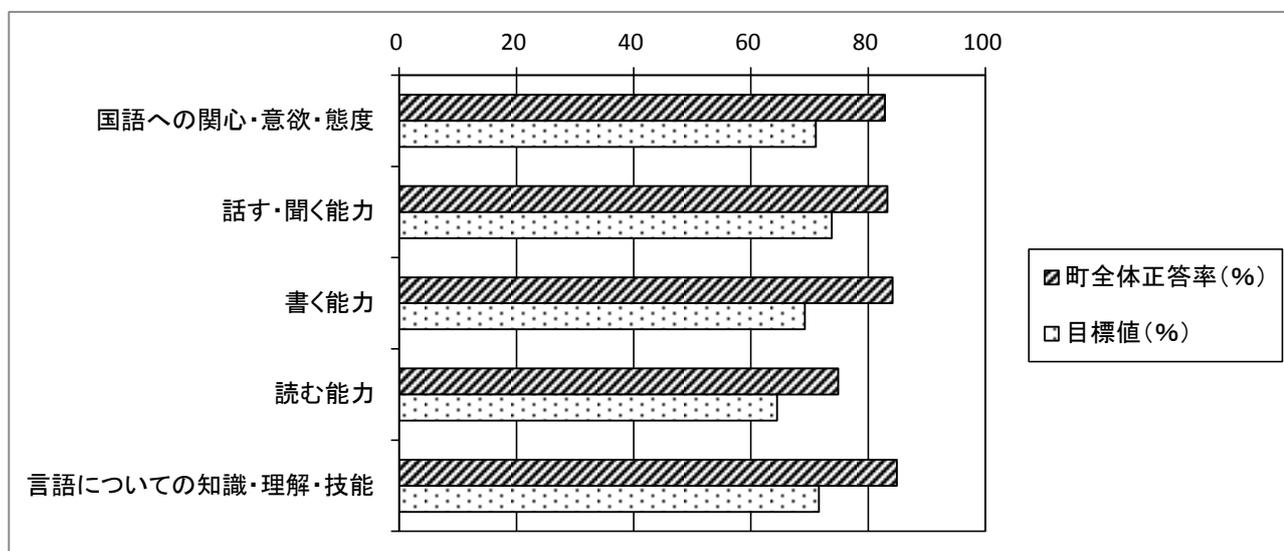
| | 話すこと・聞くこと | 書くこと | 読むこと | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 |
|-----------|-----------|------|------|----------------------|
| 町全体正答率(%) | 83.3 | 89.4 | 74.9 | 85.2 |
| 目標値(%) | 73.8 | 73.0 | 64.5 | 71.7 |
| 目標値との差 | 9.5 | 16.4 | 10.4 | 13.5 |



●領域別にみると、すべての項目で目標値を大幅に上回り良好である。ただし、新聞記事の内容を読み取る問題で、文章の内容を正確にとらえ、必要な情報を集めることに課題がある。

(3) 観点別正答率

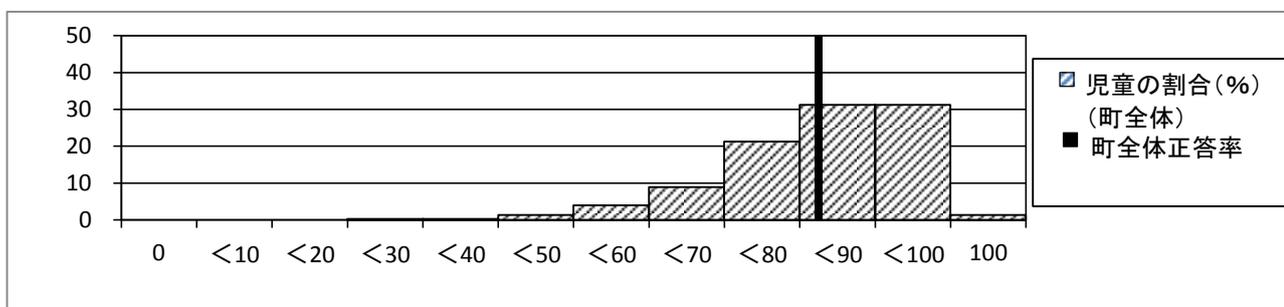
| | 町全体正答率 (%) | 目標値 (%) | 目標値との差 |
|-----------------|------------|---------|--------|
| 国語への関心・意欲・態度 | 82.9 | 71.1 | 11.8 |
| 話す・聞く能力 | 83.3 | 73.8 | 9.5 |
| 書く能力 | 84.2 | 69.2 | 15.0 |
| 読む能力 | 74.9 | 64.5 | 10.4 |
| 言語についての知識・理解・技能 | 84.9 | 71.6 | 13.3 |



●観点別で見ると、すべての観点で目標値を大幅に上回っていて良好である。

(4) 正答率度数分布

| 正答率 (%) | 0 | <10 | <20 | <30 | <40 | <50 | <60 | <70 | <80 | <90 | <100 | 100 |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|
| 生徒の割合 (%) (町全体) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 0.3 | 1.3 | 4.0 | 9.0 | 21.3 | 31.2 | 31.2 | 1.3 |



●町全体で正答率80%以上の生徒が63.7%と、非常に良好な状況である。昨年は39.1%だったので、さらに良くなっている。下位層も全く無く、良好な状態が見られる。

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(2)

【話し合いの内容を聞き取る】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 80.1 | 80.0 | 0.1 | 80.0 | 0.1 |
| 出題のねらい | 聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。 | | | | |
| 対策 | 意見発表の場面では、発表の内容とともに、発表の仕方の工夫についても注意して聞き取れるようにしたい。しかし、何をどのようにメモしたら良いのか、迷うところでもある。効果的な発表の仕方については、聞き取りだけでなく、発表学習の中でも指導していきたい。 | | | | |

大問3(3)

【文法・語句に関する知識】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 72.8 | 65.0 | 7.8 | 61.8 | 11.0 |
| 出題のねらい | 漢字の音訓について理解している。 | | | | |
| 対策 | 漢字の音読み、訓読みについての知識を問う問題である。ここでは、二つの読み方とも比較的使用頻度の高いものについて出題した。このような漢字の音と訓を区別して読めるようにするには、文章中に出てきた時に確認するだけでなく、それぞれの音と訓について熟語作りをするなどの学習も取り入れていきたい。 | | | | |

大問5(3)

【文学作品の内容を読み取る】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 81.1 | 70.0 | 11.1 | 67.3 | 13.8 |
| 出題のねらい | 登場人物の心情をとらえることができる。 | | | | |
| 対策 | 登場人物の考え方を読み取ることができず、場面や設定からの推察で答えてしまっている場合が多いと考えられる。登場人物の心情は、一般的な知識や先入観でとらえるのではなく、情景描写や文脈から読み取る指導を行うことが重要である。 | | | | |

大問6(1)

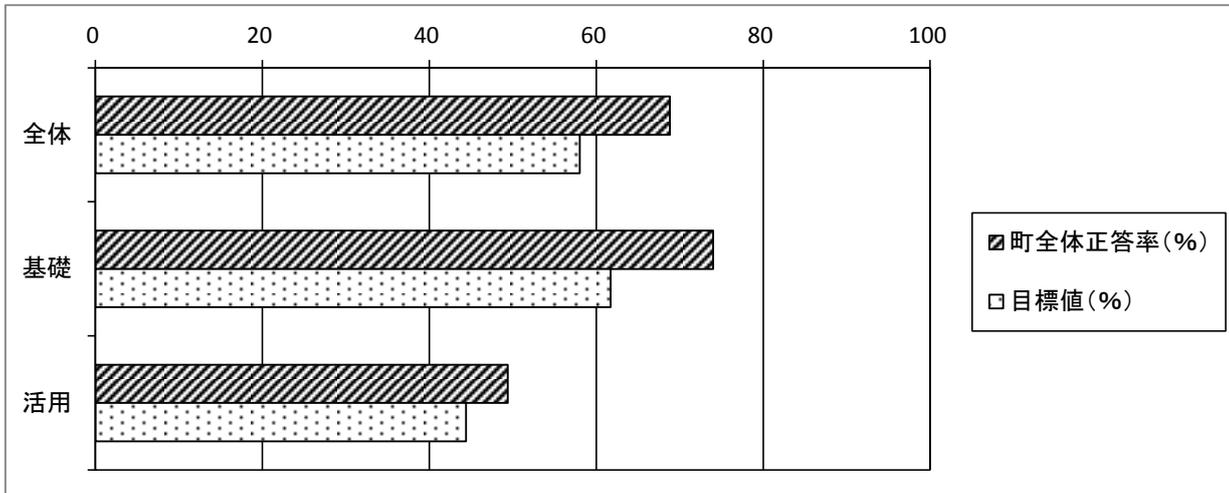
【新聞記事の内容を読み取る】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 44.2 | 50.0 | ▲ 5.8 | 46.0 | ▲ 1.8 |
| 出題のねらい | 文章の内容を正確にとらえ、その中から必要な情報を集めることができる。 | | | | |
| 対策 | 新聞記事から必要な情報を読み取り、まとめる問題である。新聞では5W1Hを押さえることが基本だが、その情報の一部が記事の囲みに書かれていることから、情報を的確にまとめられなかった生徒も見られた。新聞の活用については、新学習指導要領の言語活動例で示されていることもあり、日頃の授業においても取り入れていきたい。 | | | | |

■ 中学校第2学年【数学】

(1) 基礎・活用正答率

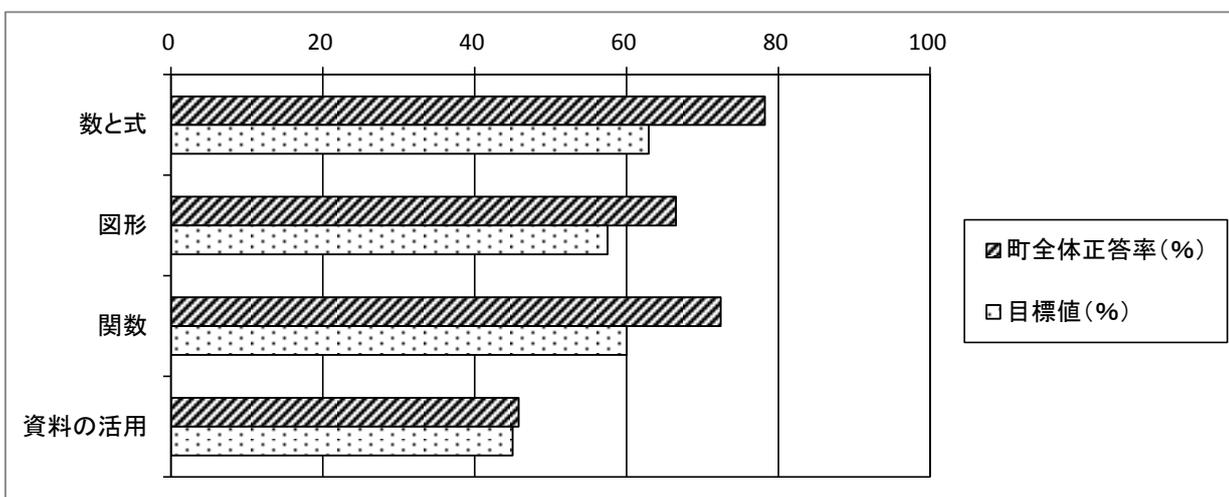
| | 全体 | 基礎 | 活用 |
|------------|------|------|------|
| 町全体正答率 (%) | 68.8 | 74.0 | 49.4 |
| 目標値 (%) | 58.0 | 61.7 | 44.4 |
| 目標値との差 | 10.8 | 12.3 | 5.0 |



●基礎・活用問題共に目標値を上回っているが、前年度より活用問題が下回っている。特に、表現力が弱い傾向にある。

(2) 領域別正答率

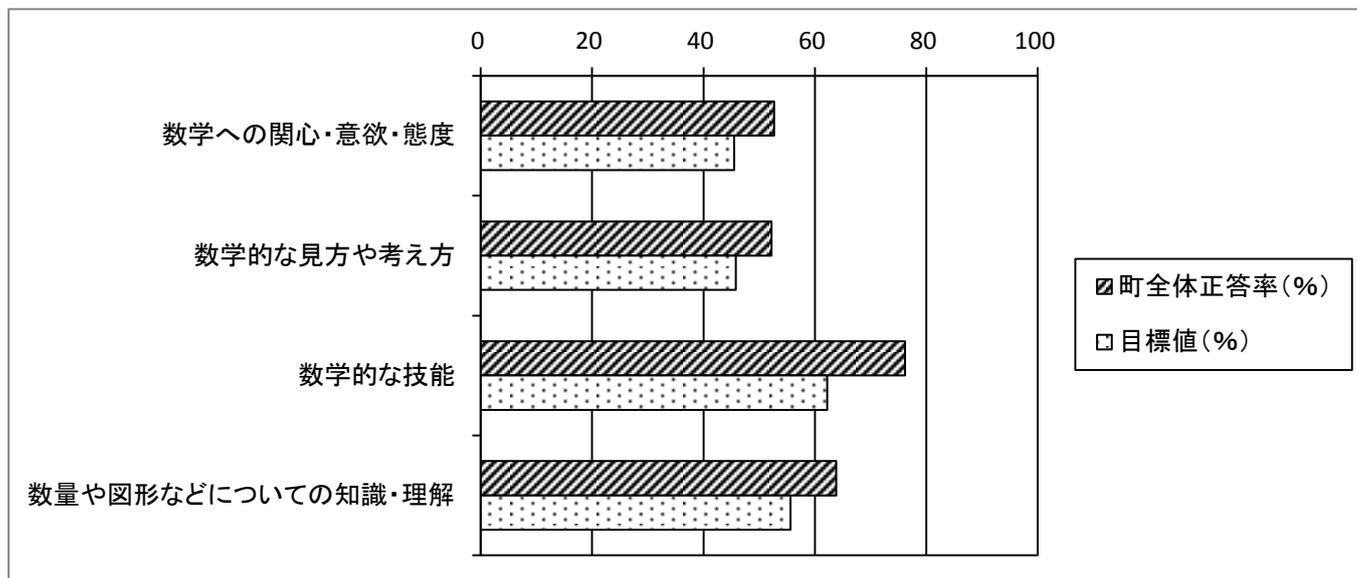
| | 数と式 | 図形 | 関数 | 資料の活用 |
|------------|------|------|------|-------|
| 町全体正答率 (%) | 78.2 | 66.5 | 72.4 | 45.8 |
| 目標値 (%) | 62.9 | 57.5 | 60.0 | 45.0 |
| 目標値との差 | 15.3 | 9.0 | 12.4 | 0.8 |



●領域別にみると、すべての領域で目標値を上回っているが、「資料の活用」は目標値とほぼ同等である。「資料の散らばりと代表値」でヒストグラムの代表値の関係についての理解と、有効数字について正しく理解し、ある距離の測定値を10の累乗を使った形に表すことに課題がある。

(3) 観点別正答率

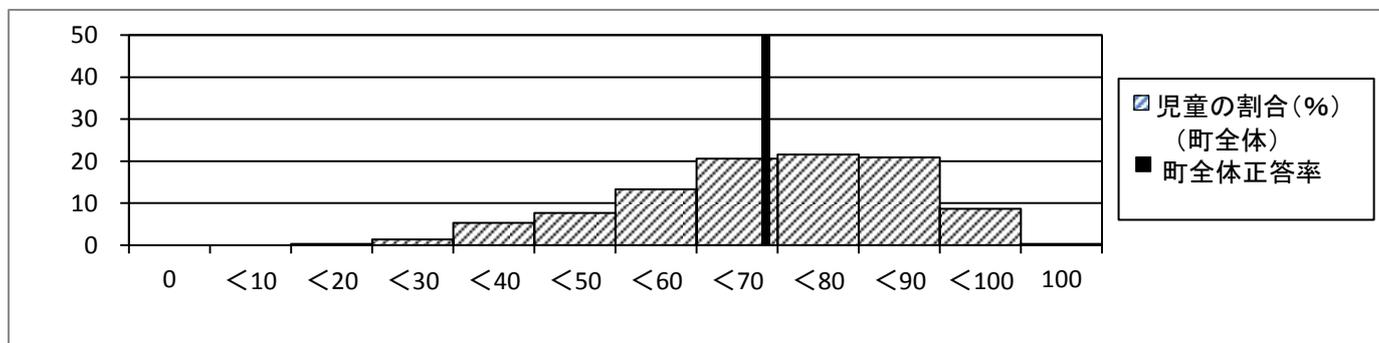
| | 町全体正答率 (%) | 目標値 (%) | 目標値との差 |
|-------------------|------------|---------|--------|
| 数学への関心・意欲・態度 | 52.7 | 45.5 | 7.2 |
| 数学的な見方や考え方 | 52.2 | 45.8 | 6.4 |
| 数学的な技能 | 76.2 | 62.2 | 14.0 |
| 数量や図形などについての知識・理解 | 63.8 | 55.6 | 8.2 |



●観点別で見ると、すべての観点で目標値を上回っていて良好である。

(4) 正答率度数分布

| 正答率 (%) | 0 | <10 | <20 | <30 | <40 | <50 | <60 | <70 | <80 | <90 | <100 | 100 |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|
| 生徒の割合 (%) (町全体) | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 1.3 | 5.3 | 7.6 | 13.3 | 20.6 | 21.6 | 20.9 | 8.6 | 0.3 |



●町全体で正答率80%以上の生徒が29.8%と良好な状況である。昨年の35.2%より少なくなっている。60%代が20.6%と多く、下位層も少なく良好である。

(5) 課題のある小問についての分析

大問4(2)

【正の数・負の数】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 64.5 | 60.0 | 4.5 | 62.1 | 2.4 |
| 出題のねらい | 負の分数と負の整数の大小を比較することができる。 | | | | |
| 対策 | 誤答の原因としては、負の数の大小関係を理解していないことと、不等号を使って大小関係を表すことに習熟していないことが考えられる。数直線などを使い、負の数の大小関係を確認するとともに、不等号を用いた表し方について、再度指導する必要がある。 | | | | |

大問10

【比例・反比例】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 61.8 | 55.0 | 6.8 | 52.7 | 9.1 |
| 出題のねらい | グラフの傾き方から、問題文の条件にあうグラフを選ぶことができる。 | | | | |
| 対策 | $y=ax$ のグラフは原点を通る直線で、 $a>0$ の時右上がり、 $a<0$ の時右下がりになることと、 a の絶対値が大きくなればなるほど、グラフの傾き方は急になることを指導する必要がある。また、絶対値の意味についても、忘れたり理解が曖昧になったりしている場合が多いので、確認しておきたい。 | | | | |

大問18

【空間図形】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 52.8 | 55.0 | ▲ 2.2 | 60.2 | ▲ 7.4 |
| 出題のねらい | 球の体積を求める式を選ぶことができる。 | | | | |
| 対策 | 球の体積については、球または半球に入れた水を円柱（底面の直径および高さ＝球の直径）に移す実験を通して「半球の体積＝ $1/3 \times$ 円柱の体積」、「球の体積＝ $2/3 \times$ 円柱の体積」の関係を見いだすなど、量感を育む指導を行いたい。その上で、円柱の求め方をもとに「球の体積＝ $4/3 \times \pi r^3$ 」の式をつくり、公式を理解できるようにしたい。球の表面積や円錐の体積についても同様に、実験等を通して、実感を伴った理解を図ることが大切である。 | | | | |

大問21

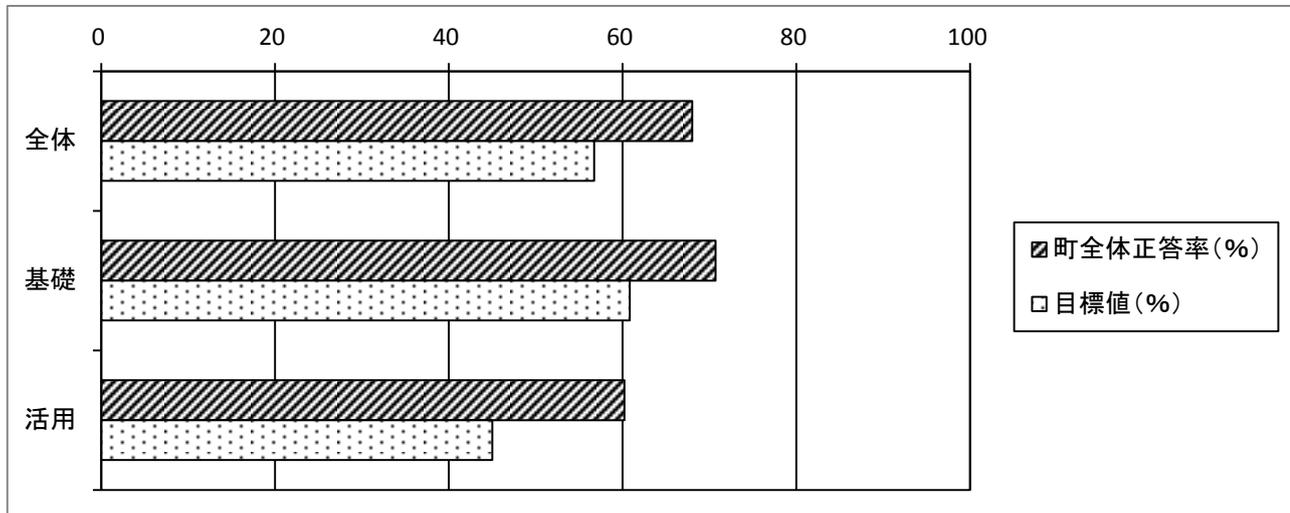
【資料の散らばりと代表値】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 20.3 | 30.0 | ▲ 9.7 | 27.9 | ▲ 7.6 |
| 出題のねらい | 有効数字について正しく理解し、ある距離の測定値を10の累乗を使った形に表すことができる。 | | | | |
| 対策 | 有効数字の意味と表し方について、丁寧に指導する必要がある。この問題の場合、有効数字が3けた（1, 2, 0）であることから、測定値1200mlは10m未満を四捨五入して得た値であることと、なぜ（整数部分が1けたの数） \times （10の累乗）の形で表すのかについて、確認しておきたい。また、有効数字だけを取り上げるのではなく、誤差や近似値等と合わせて指導することが大切である。 | | | | |

■中学校第2学年【英語】

(1) 基礎・活用正答率

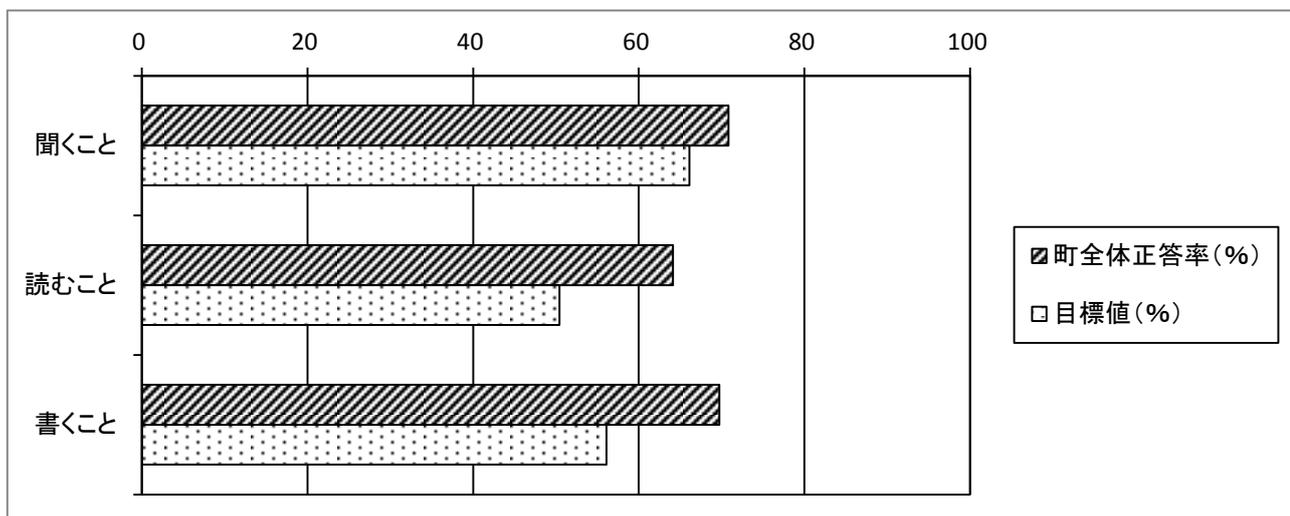
| | 全体 | 基礎 | 活用 |
|-----------|------|------|------|
| 町全体正答率(%) | 68.0 | 70.7 | 60.2 |
| 目標値(%) | 56.7 | 60.8 | 45.0 |
| 目標値との差 | 11.3 | 9.9 | 15.2 |



●基礎・活用問題共に目標値を上回っている。

(2) 領域別正答率

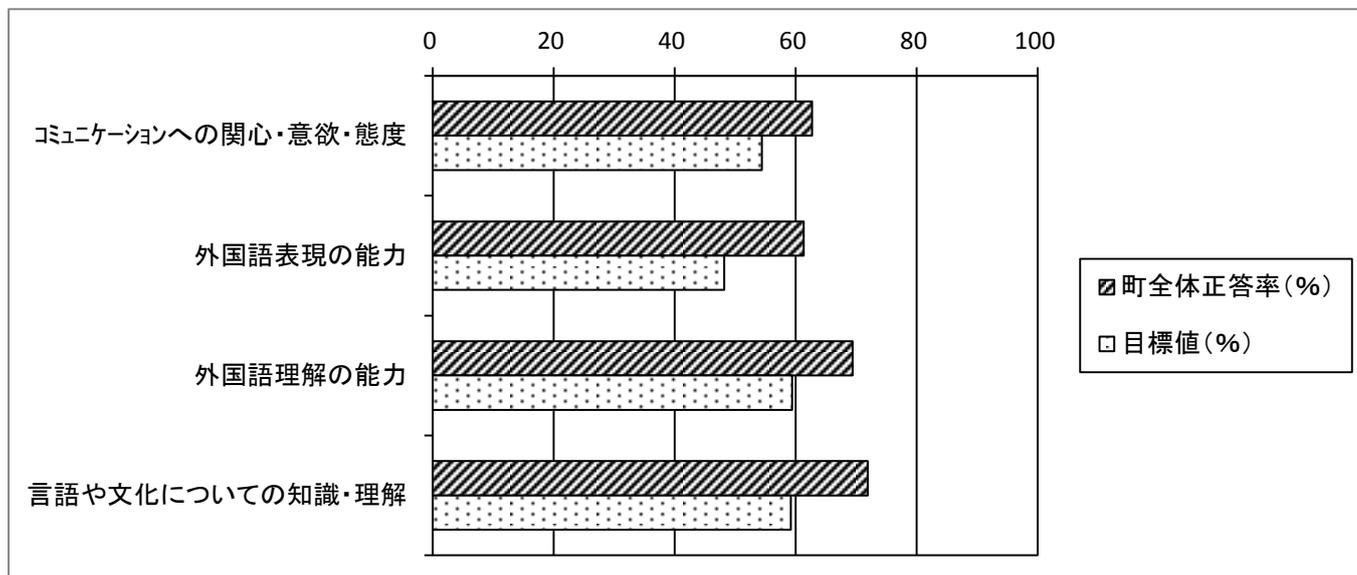
| | 聞くこと | 読むこと | 書くこと |
|-----------|------|------|------|
| 町全体正答率(%) | 70.8 | 64.1 | 69.7 |
| 目標値(%) | 66.1 | 50.4 | 56.1 |
| 目標値との差 | 4.7 | 13.7 | 13.6 |



●領域別にみると、すべての領域で目標値を上回っているが、「場面に応じて書く英作文」の正答率が低く課題がある。

(3) 観点別正答率

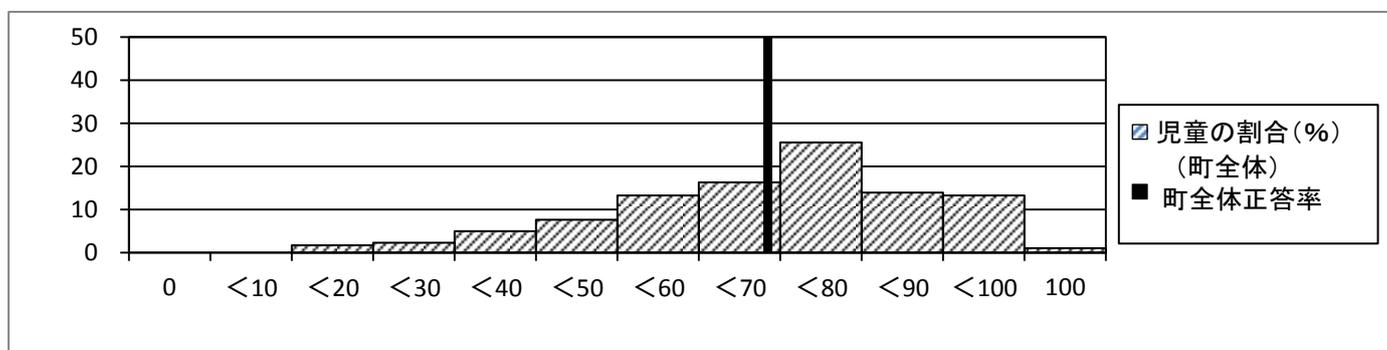
| | 町全体正答率 (%) | 目標値 (%) | 目標値との差 |
|---------------------|------------|---------|--------|
| コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 62.7 | 54.4 | 8.3 |
| 外国語表現の能力 | 61.3 | 48.2 | 13.1 |
| 外国語理解の能力 | 69.4 | 59.4 | 10.0 |
| 言語や文化についての知識・理解 | 71.9 | 59.2 | 12.7 |



●観点別で見ると、すべての観点で目標値を上回っていて良好である。

(4) 正答率度数分布

| 正答率 (%) | 0 | <10 | <20 | <30 | <40 | <50 | <60 | <70 | <80 | <90 | <100 | 100 |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|
| 生徒の割合 (%) (町全体) | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 2.3 | 5.0 | 7.6 | 13.3 | 16.3 | 25.6 | 14.0 | 13.3 | 1.0 |



●町全体で正答率80%以上の生徒が28.3%である。昨年の61.6%より大幅に減少している。上位層が非常に少なくなり、中位層の60~70%台が41.9%を占める。

(5) 課題のある小問についての分析

大問3(3)

【リスニング（内容理解）】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|---|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 54.2 | 55.0 | ▲ 0.8 | 50.5 | 3.7 |
| 出題のねらい | 英文の要点を聞き取ることができる。（興味を持っていること） | | | | |
| 対策 | 英文をしっかりと聞かず、スクリプトの第2パラグラフに出てくる“Ken and I like soccer.” “I enjoyed soccer very much.”などの文に意識を奪われてしまうと、正答に結びつかない問題である。対策としては、日頃このようなリスニング問題を行う際に、聞きっぱなしではなく、スクリプトを確認しながら、自分が聞けなかった箇所の意味を確認し、音読するなどのフォローをすることが大切である。 | | | | |

大問5(2)④

【語彙の知識・理解】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 77.4 | 65.0 | 12.4 | 66.3 | 11.1 |
| 出題のねらい | 単語を正しく書くことができる。（どういたしまして） | | | | |
| 対策 | Thank you.に対する答えとして、You're welcome.という表現があることを知らない生徒が多い。Thank you. You're welcome.という応答を、教師と生徒、および生徒どうしの活動の中で多く使わせる必要がある。例えば、余った用紙を生徒が教師に届けた時や、先生の荷物を運んでくれた時などにも、このような表現を使うことができる。日頃から積極的に英語で授業を進めることが大切である。 | | | | |

大問7(2)

【長文の読み取り】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 72.4 | 60.0 | 12.4 | 56.3 | 16.1 |
| 出題のねらい | 長文の内容を把握することができる。 | | | | |
| 対策 | 本文に合う内容を選択肢の中から選ぶ問題であり、英文の中で答えに結びつく箇所を的確に見つける必要がある。授業でリーディングをさせる時には、必ずリーディングタスクを与え、それを見つける作業を生徒にさせることが大切である。答えに当たる部分に下線部を引かせるなどの活動をする事で、生徒は解答を見つけ出すことに慣れてくる。 | | | | |

大問9(2)

【場面に応じて書く英作文】

| | 町全体正答率 | 目標値 | 目標値との差 | 全国正答率 | 全国との差 |
|---------|--|------|--------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 23.1 | 25.0 | ▲ 1.9 | 24.9 | ▲ 1.8 |
| 出題のねらい | 英語でたずねる文を書くことができる。（交通手段をたずねる） | | | | |
| 対策 | 疑問詞howの表現は、他の疑問詞に比べてやや抽象的な意味であると感じられるため、苦手とする生徒が多い。when, who, whereなどとともに、howの使い方も必ず復習させたい。また、疑問詞は、その語順を徹底して指導し、定着を図ることが大切である。 | | | | |